

知の泉
Castalia

東京外国語大学附属図書館報
Tokyo University of Foreign Studies Library Bulletin

インターネット版 第**3**号 (総第6号)
2003. September

目次 contents

- 巻頭言 附属図書館長 富盛 伸夫
- 大学図書館と私 本学教授 中山 和芳
- 特集 1「附属図書館 OPAC 新機能のお知らせ」
2「附属図書館 OPAC 多言語対応状況について(平成 15 年度版)」
- 世界電脳事情 「北京で日本にある資料をどう手に入れるか 電脳時代の図書館情報サービスの一齣」 本学教授 佐藤 公彦
- 資料紹介 「木版文化の世界 北京版モンゴル語文献を中心に」 本学教授 二木 博史
- 講演会報告(平成 14 年度) 「群島論 - 民族移動 太古から現代まで - 」
- 図書館統計
- 図書館からのお知らせ
図書館講演会, 展示会の開催のお知らせ、図書館日誌
- 編集後記

巻 頭 言

附属図書館長 富盛 伸夫

新学期となり秋空に緑の美しいキャンパスに活気が戻ってきました。本学附属図書館もあらたな季節を機に、様々な企画を用意して皆さんをお迎えしようと考えています。

まず、今年も学芸の秋にちなんで、11月に講演会と貴重書コレクションの特別展示を催します。この館報やホームページに紹介していますように、元本学教授で文化人類学・民族言語学の教鞭をとっておられた西江雅之先生が「地球を歩く、本と出会う」という演題でお話をして下さいます。同時期に、本学所蔵の内陸アジア(チベット・モンゴル他)に伝わる木版本を解題付きで2階ホールに展示する予定ですの、ご期待下さい。

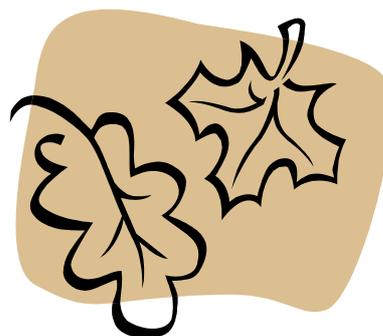
さて、附属図書館も来年4月からの法人化に備えて、いくつかの重点的目標・計画を立てています。本学最大の特色である世界諸地域の言語・文化・社会の研究・教育をとおして多元的文化価値の共生に貢献すべく、多言語対応の電子図書館機能を基盤に学習図書館的機能・研究図書館的機能を拡充することです。幸い本学はこれまでの実績と个性的かつ斬新な取り組みが評価されて、すでに動いている2つのCOEに加え、多言語情報教育の分野でも教育COEが認められるようになりました。私たち図書館では総力を挙げて電子図書館化を進め、今後数年間に渡りこの3つの研究・教育プロジェクトの支援と学術情報の発信にかかわりたいと考えています。

しかしながら附属図書館を取り巻く現実には厳しく、新たな工夫も必要です。学生・教職員の利用サービスの改善の方策としては、大学間あるいは地域共同体との協力を深め、お互い持てるものを共有し合い、足りないものを補い合う試みも重要です。すでに本学は東京地区の国立大学附属図書館間の連携を深めています、これまで検討中であつた一橋大学が合意したことで、この10月1日をもって、多摩五大学(本学、東京学芸大、東京農工大、電通大、一

橋大学)と東京四大学連合(本学、東京医科歯科大学、東京工業大学、一橋大学)の相互利用の規制緩和を推進し学部学生の利用に関して一層柔軟になります。館長などの紹介状は不要となり、本学の身分証明書だけで上記大学の図書館の入館・閲覧が可能になります。他方、府中市をはじめとする地域共同体の一組織として本図書館も地元図書館との相互利用サービスの拡大や情報交換などの交流を積極的にすすめてゆきます。

また、学習図書館としては、学生用図書の実が根幹です。リアルタイムに変貌する現代世界を読み解くための図書資料の充実を重点的にはかります。2年前からアラブ言語文化圏の理解のために、イスラム地域関連図書の強化をしています。また、そのための特別予算を用意して、学生諸君の勉学・研究に必須な図書は先生方の協力をいただいて講義やゼミのシラバスにある参考文献・推薦図書があれば、すべて購入するようにしています。学生諸君のほうから参照したい図書があれば先生を通して、あるいは遠慮なく直接図書館に希望を伝えてください。

最後に附属図書館では利用者からのご意見・質問などは、今まで以上に運営に反映できるようにする目的で、受付窓口の他にも図書館ホームページの末尾にあるメールアドレスを掲載しています。どうか皆様のご提案など、お気軽にお寄せください。



大学図書館と私

本学外国語学部教授 中山 和芳

はるか昔、私が学生だった時、大学の図書館を利用したことはほとんどない。私が在籍した大学では、専攻の研究室毎に小さな図書室があって、専攻分野に関する本や雑誌が備えられていたし、必要だと思った本は出来る限り自分で購入するようにしていたからである。だから、図書館に本を探しに行くという必要はあまりなかったのである。それに、その頃の図書館はほとんどが閉架式で、図書カードで検索して閲覧を申し込み、司書の方が奥の書庫から取ってきてくれるという方式だったから、時間がかかっていらした。また、だだっ広い机の閲覧席では周りが気になって、本を読むのに集中できなかった。

私が大学の図書館を利用するようになったのは、30年近くも前になるが、ハワイ大学に留学した時である。

ハワイ大学の図書館は週日は本来なら夜12時まで（電力不足ということで10時までに短縮されたが）開館していた。日曜日でも午後から開館していた。キャレルという仕切りのある閲覧席も初めて見た。博士論文を書く学生は特別の小さな部屋を図書館内にもらうことも出来た。図書館の各階にコピー機械が何台も設置されていて、簡単にコピーできた。本の中に磁気テープがはさんであって、手続きしないで持ち出そうとすると出口で警告音が発する装置を見たのも初めてだった。

しかし、何より驚いたのは、これまでみたこともないほど大量の本が見渡すかぎり書架に並べられていて、本を自由に手にとって眺めることが出来ることだった。私が専攻していたオセアニア関係の本は貴重な本も多かったので、Pacific Collection という特別な部屋に配架されていて、そこは閉架式だった。貴観本セクションも閉架式だった。しかし、それ以外の本はすべて開架式で、いろいろな分野の本の棚を見てまわり、意外な所で面白そうな本を見つけるのは楽しい経験だった。このように、何か読

むものはないかと書棚を見回すことを、英語で browsing というのだと知ったのもこの時である。こんな自由な図書館もあるのかと感激した。

東京外大の新キャンパスの図書館は、かつて私がハワイ大学図書館で驚きすごいなと思った方式をほとんどすべて取りいれている点で、すばらしい。私が学生だった頃の大学図書館とは大違いだ。

私も長年教師をしているうちに、蔵書が増えた。近年では老化現象が進んで、本を買ったことを忘れ、同じ本をまた購入するという愚行を重ねるようになった。

そこで、私は大学図書館を積極的に利用することにした。誰かが借り出していない限り、図書館の本は所定の場所にちゃんとある。図書館にない本でも、他大学の図書館にあれば、郵送料は負担しなければならないが、相互貸借制度で取り寄せてもらい、借り出すことも可能である。

今、大学の図書館の書架を見渡すと、読みたい本がたくさんある。雑事に追われて、本を読む時間がなかなか取れないのが残念である。



附属図書館 OPAC 新機能のお知らせ

附属図書館

附属図書館 OPAC (<http://www-lib.tufs.ac.jp/opac/index.html>) に新機能が追加されましたのでご紹介します。ますます便利になった OPAC をご活用ください。

新機能概要

1. 詳細検索画面から「WebCat」検索ができるようになりました
2. 詳細検索の「言語コード」フィールドで言語コードが選択できるようになりました
3. 検索結果の出力の際、「文字コード選択」ができるようになりました

詳細

1. 詳細検索画面から「WebCat」検索ができるようになりました

* 詳細検索画面からも、「*1」の印のある検索項目については WebCat 検索ができます。

The image shows a screenshot of the library's OPAC search interface. On the left is a navigation menu with '蔵書検索' (Collection Search) selected. The main area is titled '詳細検索' (Detailed Search) and contains several search fields. A red circle highlights the '言語コード' (Language Code) field. A speech bubble points to this field with the text: '赤 で囲んだフィールドが対象です。書名キーワードに「言語学大辞典」と入力して確認してみます。' (The field circled in red is the target. I will enter '言語学大辞典' as a keyword and check it out.)

Below the search fields, there is a 'WebCat 検索' (WebCat Search) button. A red arrow points to this button. A speech bubble points to it with the text: '簡易検索画面と同様、検索結果一覧の「WebCat 検索」ボタンを押すと、新しい Window に Webcat の検索結果が表示されます。' (Similar to the simple search screen, when you press the 'WebCat Search' button on the search results list, the search results are displayed in a new window.)

At the bottom of the search results, there is a list of results. One result is circled in red. A speech bubble points to it with the text: '[注意] 検索結果が 1 件のみの場合は、詳細表示画面へ移行し、「WebCat」ボタンは表示されません。' ([Note] When there is only one search result, it will move to the detailed display screen, and the 'WebCat' button will not be displayed.)

2. 詳細検索の「言語コード」フィールドで言語コードが選択できるようになりました

*これまで手入力していた「言語コード」が、選択 Window で希望のコードをクリックすることで自動的に詳細検索画面の「言語コード」フィールドにセットされます。

以下の一覧より「コード」を特定し、詳細検索画面の「言語コード」欄に入力して検索してください。

コード	言語名
ace	Achaz
ach	Achinese (アチュー語)
aco	Acot
adg	Adangse
afz	Afar
afy	Afrysi (Artificial language)
afb	Afrikaans (アフリカーンス語)
afv	Afro-Asiatic (Other) (セム・ハム語族)
ahk	Akkadian (アッカド語)
alb	Albanian (アルバニア語)
ale	Aleut (アリュート語)
alg	Algonquian languages (アルゴンキアノ語族)
ala	Alana

例えば、選択 Window で「ace」をクリックすると、このように自動的に「ace」がセットされます。

選択後、「検索開始」ボタンを押すと、アチュー語の図書の一覧が表示されます。

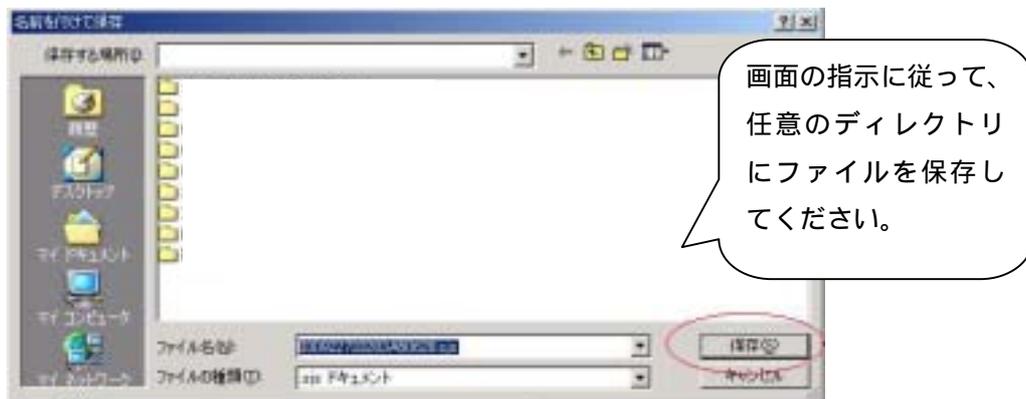
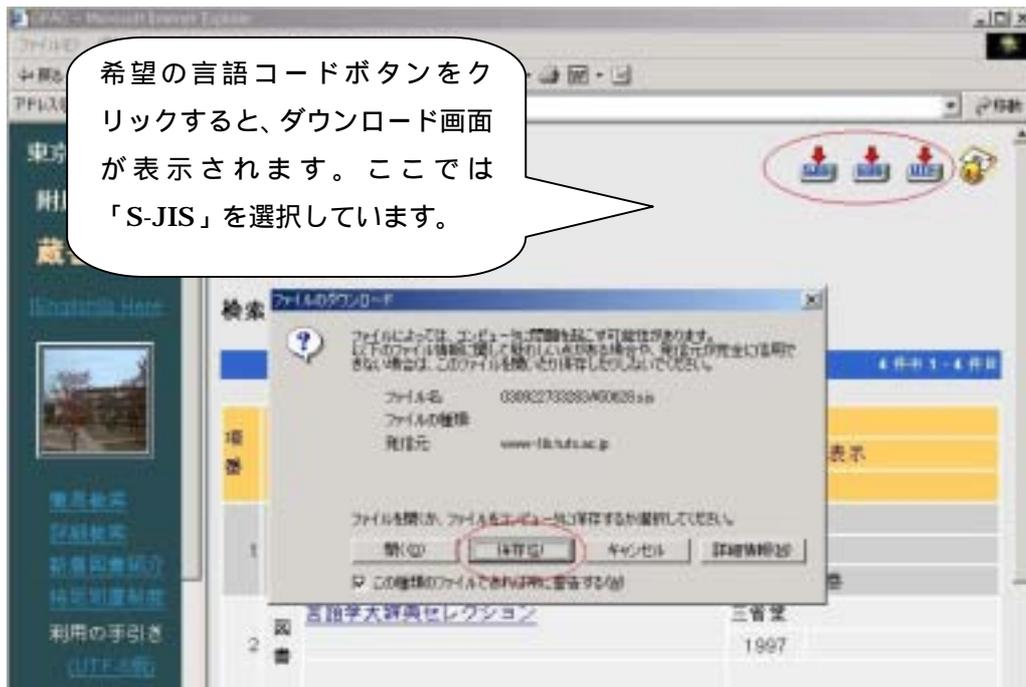
種別	著者/責任表示 [資料種別]	出版者
図書	Adat, Atéh / G. W. J. Drewes and P. Voorhoeve	M. Nijhoff
	(Verhandelingen van het Koninklijk Instituut voor Taal-, Land- en Volkenkunde, 24)	1958
図書	Atjétsch-nederlandsch woordenboek / door Haesein Djajadiningrat. Nederlandsch-atjétsch register / door G.W.J. Drewes	Landsdrukkerij
		1934
		d. 1/d. 2

この機能を利用すると、特定言語の資料を網羅的に検索することができます。次項の出力機能とあわせて、言語別のタイトルリストを作成することも可能です。

3. 検索結果の出力の際、「文字コード選択」ができるようになりました

* これまでの UTF-8 出力の他に、「S-JIS」「UCS」コードによる出力もできるようになりました。ご自分のコンピュータ環境に合わせて使い分けてください。

ただし、UTF-8 以外のコードを選択した場合は、一般的な日本語入力環境に含まれない文字（中国語簡体字，ハングル，アラビア文字，音標符号付文字など）は、文字化けしますので注意してください。

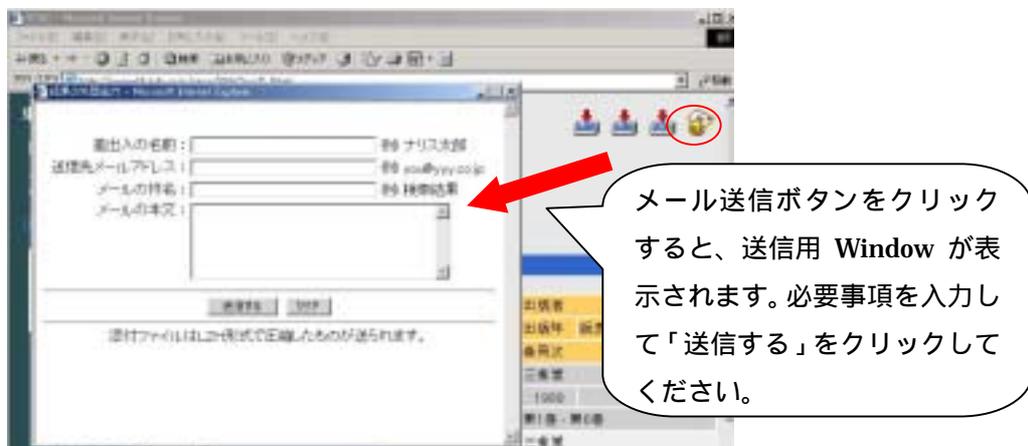


ダウンロードしたファイルの利用については、以下を参考にしてください。

- 1 .ファイルは、拡張子(html,doc 等ファイル形式を表す)なしのテキストファイルです。
なお、UTF-8 コードの場合は、アプリケーションが Unicode に対応していない場合、文字化けを起こしますので注意してください。
- 2 .ファイルをクリックしても開かない場合は、以下の要領で希望のアプリケーションに関連付けて利用してください。
 - 2-1. Windows の場合は、希望のアプリケーションを起動したあと「開く」メニューから該当のファイルを開いてください。アプリケーションの拡張子がわかっている場合は、ファイル名の後ろに「.*」(「*」は拡張子)を入力してファイルをクリックします。
 - 2-2. Unicode に対応しているアプリケーションには、Windows2000 以降のメモ帳や、WORD , EXCEL の 2000 以降などがあります。ただし、特に EXCEL の場合、2000 以降であっても直接開くと文字化けする場合があります。対処法としては、
・まずメモ帳で開く。次に”名前を付けて保存”を選択して文字コードを”UTF-8”から”UNICODE”に変更し、UNICODE 形式のテキストファイルとして保存する。その後、作成されたテキストファイルを再び EXCEL で開く。
と正しく表示されます。少々面倒ですが、困ったときは試してみてください。
 - 2-3. なお、Unicode 対応のアプリケーションを特定できない場合は、HTML 形式(拡張子を「.html」と入力)でのご利用をお勧めします。書式は整いませんが、エンコードを「UTF-8」に指定することで文字を正しく表示させることができます。

追記<メール送信機能>

- *メール送信ボタンをクリックすると、出力結果を電子メールの添付ファイルとして送信することができます。LZH 形式の圧縮ファイルとして送信されます。解凍ソフトをご利用ください。解凍後のファイルは、UTF-8 コードの CSV ファイルになります。
(ファイルの効果的な利用方法は、前項を参考にしてください。)



疑問・質問がありましたら、情報サービス係 (toshu-joho@tufs.ac.jp) までご相談ください。

附属図書館 OPAC 多言語対応状況について (平成 15 年度版)
 原綴り登録の新規開始, 言語別の登録文字種のご案内

附属図書館

平成 14 年度の多言語対応版へのリニューアル以来、OPAC では原綴りによる目録情報の提供を進めております。本稿では、平成 15 年 9 月現在の対応状況をご説明します。

アラビア文字資料の原綴り登録開始

< 新規登録の開始 >

これまでは、アラビア語に限り「原語タイトル」というフィールドにアラビア文字による「書名/責任表示」情報のみ登録を行っていましたが、平成 15 年 7 月に国立情報学研究所(NII)の NACSIS-CAT がアラビア文字資料の登録・提供を開始したことに伴い、新規登録データから、版、出版事項などを含めた全面的なアラビア文字による登録を開始しました。対象言語も、アラビア語だけではなく、ペルシャ語、ウルドゥー語など、アラビア文字で表記されるすべての言語が含まれます。

従って、アラビア文字で登録されたデータは、直接アラビア文字で検索できます。また、OPAC の WebCat 検索機能でも、同様にアラビア文字で検索できます。

注) 現在は、アラビア語、ペルシャ語を中心に登録を進めています。ウルドゥー語等の他のアラビア文字表記言語についても、順次着手する予定です。

< ペルシャ語の登録例 >

図書詳細情報

資料種別 : タイトル言語 : ペルシャ語 テキスト言語 : ペルシャ語

書名/責任表示 : مصنفه حضرت الهديه الجشي العنماني / سير الافطاب ||Siyar al-aq3b

出版事項 : 1913. مطبع نول کشور , لکهنؤ : مکهنؤ

形態 : 256 p. ; 26 cm

注記 : In Persian

Summary: Biographies of Chishti sufis

著者標目形 : *Chishfi 'Ugmāni <QA14068716>

分類 : NDC9:167.8

件名 : 米國語会図書:Sufism -- India -- Biography//普通件名

書誌 I D : BA62859807

これまで LC 翻字形データで登録されていたフィールドがアラビア文字で登録されます。

* なお、書名については、従来登録されていた LC 翻字形データも登録されます。また、著者標目形は、引き続き LC 翻字形データ形式で登録されます。このため、書名・著者名に関しては、今後も LC 翻字による検索が可能です。お使いのコンピュータ環境に合わせて使い分けてください。

< 既存データの扱いと新方式データとの網羅的検索について >

これまで登録してきたアラビア文字資料のデータについては、順次、新方式データと同じレベルに修正していく予定ですが、当面は、LC 翻字形のみで登録されているデータが混在します。また、アラビア語については、さらに、以下の異なる 2 つの登録方式が混在します。

LC 翻字データにアラビア語による原語タイトルが追加登録されているもの

原語タイトル :	نحو ثقافت سياسيه جديده / ب. روزانفالون، ب. فيفري ; ترجمه خليل أحمد خليل
書名/責任表示 :	Nahwa thaqāfah siyāsīyah jadīdah / B. Rūzānvālūn, B. Vīvrī ; tarjamah Khalīl Aḥmad Khalīl
その他の標題 :	原書名: Pour une nouvelle culture Politique
版 :	al-Ṭab'ah 1
出版事項 :	Bayrūt: Dār al-Ṭalf'ah, 1982

書名/責任表示のみアラビア語化して登録されているもの

書名/責任表示 :	في منهج الدراسات الادبية / حسن الواد Fi manāḥij al-dirāsāt al-adabīyah
版 :	al-Ṭab'ah al-Tūnisīyah
出版事項 :	Tūnis: Sirās, 1985
形態 :	114 p.; 21 cm
シリーズ名 :	السلسلة قرآنية <BA49968455>

従って、網羅的に検索を行うためには、既存データと新方式のデータ双方に登録されている情報で検索する必要があります。具体的には以下の 2 項目です。

- ・ LC 翻字形による、書名データ および 著者名データ

以上を理解の上、検索漏れのないようご注意ください。

その他の「新規登録開始言語」のご案内

今年度より、デーヴァナーガリー文字 (ヒンディー語など)、タイ文字についても、「原語タイトル」フィールドへの原綴り登録を開始しました。ただし、アラビア文字同様、網羅的な検索のためには LC 翻字形での検索が必要ですのでご注意ください。

原語タイトル :	लच्छवियों के अंचल मे / जगदीशचंद्र जैन
書名/責任表示 :	Licchaviyom̐ ke Añcala meṃ / lekhaka Jagadīścandra Jaina
版 :	1. Saṃskaraṇa
出版事項 :	Dillī: Neśanala Pabliśiṅga Hāusa, 1961
形態 :	191 p.; ill.; 19 cm

原語タイトル :	เสฐฐิ์ตี้นแปล่ / (ว.วินิตชัยกุล)
書名/責任表示 :	Sēthī tīn plao / [Wō. Winitchaikun]
版 :	Phim khrang thī 2
出版事項 :	Krung Thēp: Bōrisat Ton 'Q̄, 2533 [1990]

言語別の登録文字種一覧

多言語対応の進展に伴い、言語によって登録される文字種およびフィールドに差異が生じています。現状を一覧表にまとめましたので、検索ヘルプとしてご利用ください。

[言語・文字種別 / 登録文字種・フィールド一覧]

平成 15 年 9 月 30 日現在

言語・文字名称	基本記述	よみ	その他のよみ	原語タイトル	その他
日本語	原綴り	カナヨミ			
中国語	原綴り	日本語カナヨミ	ピンイン		
朝鮮語	原綴り	ハングルヨミ			
アルファベット 表記言語	原綴り				
キリル文字 表記言語	原綴り				「その他のタイトル」に LC 翻字形
ギリシャ語	原綴り				
アラビア文字 表記言語	原綴り		LC 翻字形		
* アラビア文字 既存データ	LC 翻字形				
* アラビア語 既存データ-1	LC 翻字形			原綴り	
* アラビア語 既存データ-2	「著者/責任表示」のみ原綴り		LC 翻字形		
デーヴァナーガリー 文字表記言語	LC 翻字形			原綴り	
タイ文字 表記言語	LC 翻字形			原綴り	
上記以外の非ロー マン・アルファベット 表記言語	LC 翻字形				

疑問・質問がありましたら、情報サービス係 (tosho-joho@tufs.ac.jp) までご相談ください。

北京で日本にある資料をどう手に入れるか

電脳時代の図書情報サービスの一齣

本学外国語学部教授 佐藤 公彦

昨年一年間、日本を離れて「北京日本学研究中心」で勤務した。ここは中国に於ける日本語・日本研究と交流人材の養成を目的に、国際交流基金と中国教育省が共同運営している「大学院」である。教育省はその実施を北京外国語大学に委任しており、北京日研もその構内にある。日中国交正常化 30 周年の折、対中国 O D A 再開の目玉として無償資金援助で新施設が建設され、外務省文化無償援助での A V 機器の導入、基金資金で NACSIS 多言語対応図書館システムへの強化、と矢継ぎ早の展開だった。

この機関の発端は、1979 年に大平首相が中国を訪問した折、文化大革命後の中国の日本語教育に協力を約束したことから、国際交流基金が、翌 1980 年から毎年 2 億円（合計 10 億）を投入、中国の大学の現職日本語教師 120 名に対し、一年間の集中研修を五年間（計 600 名）行なったことに始まる。これを通称「大平学校」という。本学からも、延べ 8 名の先生方が北京語言学院に置かれた「日語教師培训班」で教鞭を取った。その成功を受けて 85 年から北外大に設置されたのが、大学院「北京日本学研究中心」。日本研究の大学院であるからにはそれ相応の研究設備、とりわけ、質の良い相当数の日本語図書資料が要る。現在およそ 7 万冊余の図書、中国最大の日本語専門図書館だが、それだけでは修士論文は書けない。半年の訪日研究でそれを埋めるが、それ以前の研究が大事だ。

では、日本研究を行う中国人院生はどのように日本語文献を入手して修士論文を書くのか。これは興味のあるところだろう。場所は北京、

工夫と仕掛けが要る。この仕掛けはなかなか便利である。北京日研の日本語図書の書誌情報は東大図書館と同じ NACSIS システムで、日本語で入力されている。だからネットでこの HP にアクセスして検索できる。これに載ってないときは、コンピュータ室にある国外のネットに接続可能な 10 台程の PC を使って、日本の国会図書館、あるいは国立情報学研究所（NII）の NACSIS Webcat

（<http://webcat.nii.ac.jp>） 「北京日研」もこれに入っている に接続して文献を検索する。こうして日本にある文献の大体の所蔵状況が把握できる。で、何としても欲しい文献が見つかり、それが NACSIS-ILL サービスに加入している大学図書館（北大、東大、慶応、明治など）にあるか調べ、所蔵していれば、ILL サービスを申し込む。北京から NII を通じて複写サービスの依頼が当該大図書館に行き、文献のコピーが北京日研の日本国内登録地である国際交流基金に送られ、基金が代金を支払い、複写は北京に郵送され、申込者に資料が渡される。この間約 2 週間。

つまり、北京から、中国国内（今のところ北京日研と天津図書館だけ）と日本の大部分の図書館（国会図書館を含む）の文献検索が可能で、必要文献のコピーの入手も ILL を通して可能だということになる。私も講演をやるのに資料がなくて困り、このシステムを使って日本からコピーを送ってもらって、なんとか「近代日本と中国 コロネル・柴と荒尾精」という話をした。こうなると、コンピュータ音痴の私にも電脳世界の威力が眼に見えてくる。帰国後、文

献検索もこれに倣うようになった。まず、自宅パソコンから東大のOPACにアクセス、東大内での文献所在を確認する、つぎに同ページのNACSIS Webcatで全国の所蔵状況を調べる。外大にあればラッキーだ。さらに国会図書館にアクセスして検索する。そして月に何回か出かけていく都心の国会や東大で時間の都合をつけてコピーし、その他の場合は東大図書館の情報資料サービスを利用して文献のコピーを

入手する、というやり方をするようになった。このやり方はかなり効率がいい。電腦を使うと、空間と時間を変容させることができるようだ。だが、資料を入手した後の研究のオリジナリティは電腦ではなく、もっぱら人間脳に懸かっているらしい。けれども、こちらを鍛えるのには時間がかかる。(関心のある方は<http://bjryzx.cn99.com> へどうぞ。ただし中国語)

外語COLLECTION

木版文化の世界

——北京版モンゴル語文献を中心に——

本学外国語学部教授 二木 博史

金属活字をもちいた印刷技術が普及するまえの時代、木版印刷が重要な役割をはたしたことは、東アジア文化史のきわだった特徴だ。モンゴル語の印刷物の場合も、元朝以来の数百年にわたる木版の時代のあと、みじかい石版印刷の時期をへて、20世紀の10年代から活版印刷が主流になった。

モンゴル語の木版印刷の代表的なものは、北京版とよばれる、おもに清代に北京で出版された書物である。本学附属図書館には、約20点のモンゴル語の北京版が所蔵されてきた。ジャンルからみると、対訳語彙集と仏典が大部分である。

興味ぶかいのは、その形態で、世俗的内容の書物は、縦長の線装本であるのに対し、宗教書は極端に横長で、通常はとじられてなく、ふるしきのような布につつまれている。前者は中国のむかしからの書物の形態を踏襲しているタイプだが、後者は実は、古代インドの貝葉経に

ルーツをもつ形態である。つまりマンジュ(満州)人皇帝の支配する都市北京では、中国文化とインド文化が交差していたということになる。

チベット語の経典はほとんどが貝葉経のかたちをしており、チベット語から訳されたモンゴル語の経典もまったくおなじ形をとった。北京木版本のデータを記述した、図書館の旧分類のカードの何枚かにあやまって「チベット・ラッサ」とかきこまれている背景には、このような事情がある。

木版本はもちろん、版木に墨をぬり紙をあてて印刷される。版木の製作は、基本的には、板と小刀があれば可能なので、質を問題にしなれば、かなり容易にどこでもつくれるという性格をもつ。モンゴル人は仏典を最初は、チベットの諸寺院や北京から購入していたが、18世紀になるとモンゴル各地の寺院でも出版がなされるようになった。

仏典のおおくは、出版データを欠いているので、出版地を特定するのは、容易ではない。北京版は、ほとんどの場合、ページ数を漢字でも記載しているので、漢字がかいてあれば通常、北京版と判定される。もっとも厳密に言えば、承德や五台山や瀋陽で出版された可能性も否定できない。プライベート版の見わけ方は簡単で、工場製のすかしの紙に印刷されているので、すぐそれとわかる。チベット地域で木版印刷されたものは、繊維のあらい、一目でわかる独特な紙に印刷されているので、やはりすぐ区別できる。いちばんむずかしいのが、モンゴル諸地域で出版された木版本である。専門家は、書体で判断するが、かならずしも万能ではない。しかも木版という技法は、実はまったく同じものを複製することも可能で、たとえば、漢字がつかわれているから中国本土で印刷されたとは、かならずしもいえないのである。

モンゴル研究のなかで、北京版の重要性に最初に注目したのは、ドイツの世界的モンゴル学者ワルター・ハイシヒだが、かれが実際に北京で木版本をかいもとめた1940年代前半には、まだ崇祝寺の正門のわきの「天津書舗」には、

数千の版木が保存され、注文に応じて印刷がおこなわれていたという。故宮の北がわのチベット仏教の大伽藍雍和宮に何種類かのモンゴル語仏典の版木が保管されているということが、最近あきらかになったが、大部分の版木は第二次大戦後の混乱のなかでうしなわれたとかがえられている。

本学に所蔵されている木版本も、おそらくは1910年代から1940年代の時期に、当時の教官等によって北京で購入されたものと推定される。

現在進行中のCOEプログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」の予算で、モンゴル語の北京木版本を、チベット・モンゴル語のbilingualのものもふくめ、6点購入した。ほかにロシア帝国時代、シベリアで刊行されたプライベート版など、計11点の木版本もかったので、本学図書館のモンゴル語の木版本のコレクションは、40点ちかくなった。この点数は、世界の諸図書館での所蔵状況にくらべても、それほどひけをとらない、ほこりうる数字だといってよい。
(ふたき ひろし モンゴル史)

[編集注]

本稿で紹介の文献のうち5点を、11月に開催予定の図書館貴重書展示会『東アジア木版文化の世界 - 北京版モンゴル語文献を中心にして』にて展示いたします。

興味のある方は、是非ご来館ください。

日時等、詳細については、16ページの「図書館講演会及び貴重書展示会のお知らせ」にてご確認ください。

「群島論 - 民族移動 太古から現代まで - 」

法政大学国際文化学部教授 島田 雅彦

二つの大きな旅について述べたい。

一つ目は、いわゆるグレートジャーニーと言われている旅である。これは人類が400万年かけて人類発祥の地であるアフリカ東海岸から一番遠い南米最南端のホーン岬まで移動した旅である。

アフリカ東海岸で人類最古の足跡を発見したリーキ博士によると、少なくとも今から180万年前までは地球上に2種類の原人がいた。一つは、ホモハビリス(順応する人の意)で、彼らは肉食生態を採っており、動物を殺す道具も開発した。もう一つは草食生態を採っていたジンジャントロプスである。

2種類の原人はある時期まで共存していたが、最終的にはジンジャントロプスは滅ぼされ消えた。おそらく我々は地球上のあらゆる所に移動して順応していった肉食原人の末裔である。戦争を好み、争いを勝ち抜いて生き延びることに情熱を燃やす存在でもある我々人類を、かつてシュペングラーは「人類は猛獣である」と述べたが、その言は正しかったかもしれない。我々は猛獣であることを選んだ人類の末裔であることを一人一人が自覚する機会を持った方がいい。

グレートジャーニーは、後世から見れば快挙かも知れないが、特定の人間の栄光や目的とは無関係に行われたのが特徴である。ユーラシア大陸からアメリカ大陸への徒歩による移動も、まずは寒冷地への順応が必要であったと思われるが、順応しようとする特別な意思も無く、それは行われた。一つの寄り道や偶然の気まぐれが数千年数万年単位で積み重なってくると、かなり離れた土地への移動につながる。グレー

トジャーニーは、そんな寄り道が支えてきた旅なのではないかと私は考える。

こうした文明発祥以前の歴史と以後の歴史はタイムスパンがまったく異なる。特にここ数百年の近過去の出来事は、それ以前の出来事とその重要度において格段の差があり、我々の今日の生活や習慣、物の考え方にも非常に強く影響を与えている。

二つ目の旅は、この近過去である大航海時代の旅である。そもそも大航海時代とは現代のグローバリズム時代の先駆けであり、歴史上初めて世界経済というものが成立した時期といえる。それまでひたすら外へ自由に拡散していた旅が、単一の原理、例えば宗教や政治システムや哲学などの下に一つにまとめられてしまう。ヨーロッパ人が考える偉業であるコロンブスによるアメリカ大陸の発見、その後のキリスト教布教とセットになった海外植民地の拡大、これらは一部の人々の動機と目的と栄光に基づく旅と言えよう。

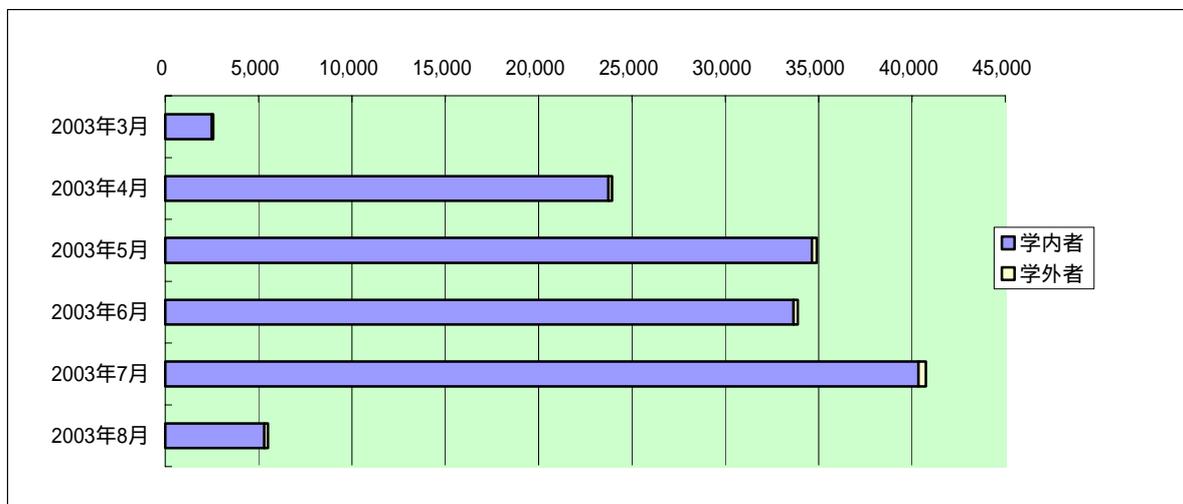
一方、この時代にはもう一つ別の旅も存在していた。それは、迫害され生活の場を転々とせざるを得なかったユダヤ人達の旅であり、彼らはヨーロッパの中で激しく移動を繰り返した。このユダヤ人が余儀なくされた旅は、大航海時代から今日に至るまでの人類が経験する旅の基本形を作っているのではなからうか。我々が生きているこの時代の旅というものは、否が応でもある一つの背景や動機という、他人の都合が与えられてしまっているということこそ是非胸に刻んでおいて欲しい。

(文責 高杉 泰穂)

[編集注] 本稿は、平成14年10月30日に開催された図書館講演会の要旨です。

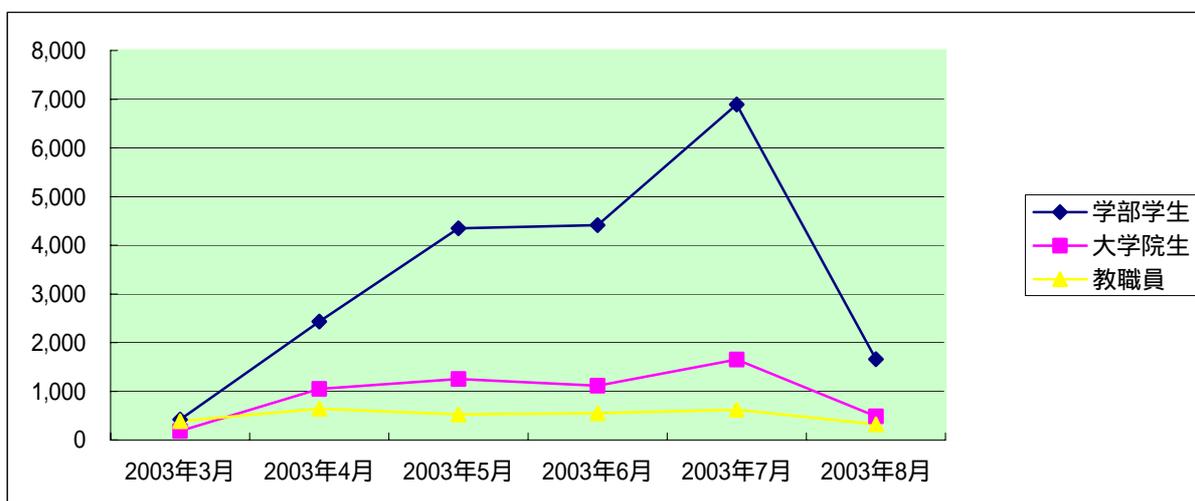
図書館統計

月別入館者統計



	2003年3月	2003年4月	2003年5月	2003年6月	2003年7月	2003年8月
学内者	2,492	23,734	34,642	33,662	40,347	5,315
学外者	77	204	259	218	389	179
合計	2,569	23,938	34,901	33,880	40,736	5,494

貸出冊数統計



	2003年3月	2003年4月	2003年5月	2003年6月	2003年7月	2003年8月
学部学生	417	2,435	4,348	4,412	6,891	1,659
大学院生	184	1,046	1,251	1,115	1,652	482
教職員	384	643	525	548	621	323
合計	985	4,124	6,124	6,075	9,164	2,464

図書館からのお知らせ

図書館講演会及び貴重書展示会のお知らせ

附属図書館では、平成12年度から公開講演会を図書館活動の一環として行っております。今年、元本学教授でもある文化人類学者の西江雅之先生をお招きして、多摩地区の市民、大学生・教職員を対象に下記の要領で講演を行います。

また、同時期にモンゴル語の木版本を中心とする貴重書展示会も開催いたします。多数の皆様のご来場をお待ちしております。

< 講演会 >

テーマ 『地球を歩く、本と出会う』
講師 元東京外国語大学教授・西江雅之先生
日時 平成15年11月5日(水) 17時00分～18時30分
場所 東京外国語大学「マルチメディアホール」(研究講義棟1階)
お問い合わせ

東京外国語大学 附属図書館総務係
電話 042-330-5193
FAX 042-330-5199

< 貴重書展示会 >

テーマ 『東アジア木版文化の世界 - 北京版モンゴル語文献を中心にして』
日時 平成15年11月4日(火)～29日(土) 9時00分～21時45分
但し、土曜日は9時30分～16時45分、
11月22日(土)・日曜日・祝日は休館です。
場所 東京外国語大学 附属図書館2階貴重書展示コーナー

図書館からのお知らせ

平成15年度前期図書館活動日誌

- 4月 8日 入学式（館報「カスタリア」等配布）
- 4月 9日 平成15年度図書館オリエンテーション（全5回 ～4月23日）
- 4月18日 国立大学図書館協議会東京地区協議会総会2名参加
（於東京農工大学）
- 5月 6日 Council of South Asia Library Centers Meeting 1名参加
（於スリランカ ～7日）
- 5月 7日 平成15年度第1回図書館委員会
- 5月 7日 利用者ガイダンス（全4回 ～5月27日）
- 5月28日 国立大学附属図書館事務部課長会議1名参加
（於東京医科歯科大学）
- 5月28日 NII 目録システム講習会（図書コース）講師1名派遣
（於国立情報学研究所 ～30日）
- 5月28日 平成15年度第1回選書委員会
- 6月23日 漢籍整理長期研修（於東京大学 ～7月4日）1名参加
- 6月24日 平成15年度情報リテラシー科目附属図書館担当分「情報
検索講義・演習」（6月24日、26日、7月1日の3日間）
- 6月25日 第50回国立大学図書館協議会記念総会3名参加
研究集会において発表（於埼玉 ～26日）
- 7月 9日 NACSIS-CAT にてアラビア文字資料の登録開始に伴い、当館シス
テムでの登録を開始
- 7月16日 平成15年度第2回図書館委員会
- 7月23日 平成15年度第2回選書委員会
- 8月27日 四大学連合図書館連絡会1名参加（於一橋大学）
- 9月22日 漢籍整理長期研修（於東京大学 ～26日）1名参加
- 9月30日 多摩地区5大学相互利用に関する申合せ調印式3名参加

編集後記

館報カスタリア第6号をお届けします。毎年春の冊子版と9月のインターネット版を合わせて、2001年3月30日発行の創刊号から約2年半の間に6号、発行することができました。カスタリアは図書館の利用や図書館からのお知らせ、図書館に関する教官のエッセイなどを中心に、図書館を利用する人を対象として発行されています。

さて、あと半年で国立大学は国立大学法人になります。図書館もそのための準備で大変です。例年ですと夏季休館は二週間のところ三週間に延長し、蔵書点検をしております。また、年々増加する図書に対して書架を増設しまして、その工事が11月までかかる予定です。図書館利用者の方にはご不便をおかけいたしますが、ご理解願います。

法人化は百年に一度の改革であるという人もいますが、六十万冊におよぶ蔵書点検も今迄したことのない事業です。法人化についてはいろいろな意見のあるところですが、法人化移行のために図書館職員一同頑張っております。

Castalia:東京外国語大学附属図書館報 第6号 :インターネット版 第3号

<http://www.tufs.ac.jp/common/library/gaiyo/kanpo/castalia-6.pdf>

2003年9月30日発行

発行：東京外国語大学附属図書館 〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

TEL / FAX: 042-330-5193 (TEL) 042-330-5199 (FAX)

ホームページ：<http://www.tufs.ac.jp/common/library/index-j.html>

編集発行人 本橋文次郎

編集長 高杉 泰穂

編集委員 山田 穰

齋藤眞一郎

加藤さつき

